



信頼でつなぐ税金の意味

大田区立大森第四中学校 三年 加藤 美緒南

「無駄遣いしないようにね」お母さんのその一言を思い出しながら、毎月もらうお小遣いを手に、私は今日も迷います。中学生の私にとって限られたお金をどう使うかは小さな悩みです。友達とスタバに行くか、学校で必要な文房具を買うか、それとも少しずつ貯金するか。貰ったお小遣いの行き先は自分で把握できるので、納得して使うことができます。

一方で、税金の使途は、お小遣いのように自分で直接管理できるものではありません。目に見えないところで使われているため、どこで役立っているか知るのには難しいです。それでも税金は私たちの生活を支える大切な役割を果たしています。学校の教室や図書館、道路や病院など、身近な生活で恩恵を受けることに気づくと、税金は将来の自分や、社会に返ってくる、目に見えない間接的な投資だと感じます。そしてこれが意味を持つのは、国が責任を持って税金の使い道を考え、私たちが信頼するときです。国と国民の信頼関係こそが、税金の力を支えるものなのだと思います。

国民がどの政党や政治家が税金を正しく使うかを確認し、判断する機会として、選挙があります。2025年の参議院選挙では、物価高対策やコメ価格高、消費税減税などが、主要となっていました。私たち中学生はまだ有権

者ではありませんが、税金の使途を学ぶことは、将来の納税者としての責任や信頼を知る大切さにつながります。国の予算には、非常に大きな金額が動いており、会計検査院によれば過去には数百億円規模で、使途が不明確なこともありました。このように、税金が本来の目的以外で使われたり、不透明な流れになると、国民の政治や税金に対する信頼が損なわれることがあります。実際、世界租税支出透明性指数では日本は94位と、評価されていて、税金を払っても何に使われているのか、分かりにくい現状が今、あります。一方、世界の国々では、税金の使い道が明確で社会保障などに投資される国ほど安心して納められます。たとえば、ノルウェーでは、消費税が高くても将来の社会保障に使われることがはっきりしているため、国民は信頼して税金を納めています。

私はこれらのことから、税金を納めることは単なる義務ではなく、社会や将来の自分の生活のために信頼をもって使われるお金だと考えました。だからこそ、私たちも税金の仕組みを学び、国との信頼がどうか築かれ、税金が社会のために使われているか理解することが大切です。そして、選挙はその信頼を確かめる手段の一つです。私たち国民が、どの政党や政治家が税金を正しく使うか判断する機会として、投票を通して信頼を確認できます。この信頼があるからこそ、税金は目に見えなくても、私たちや社会全体への大切な投資として意味を持つのだと思いました。